

## ラージスケールの AAV 産生に特化したトランスフェクション試薬 FectoVIR<sup>®</sup>-AAV

HEK293 細胞に AAV ベクターを導入するためのトランスフェクション試薬です。

浮遊培養 HEK293 細胞を用いた組換え体アデノ随伴ウイルス (AAV ベクター) の一過性発現 (大量産生) に最適です。

※本製品は研究用です。研究用以外には使用できません。

### 特長

- 動物由来成分を含みません。
- 本製品 10 ml で約 5 L の細胞培養液にトランスフェクションできます。

品名	メーカー	商品コード	包装 / 価格 (¥)
FectoVIR-AAV			
PPU 101000044			1 ml / 55,000
PPU 101000022			10 ml / 294,000

本製品の大量包装 (100 ml) のご購入時には、専用の「使用者確認書」が必要です。  
※旧商品コード: 120-001 (1 ml), 120-010 (10 ml)

2021年10月1日より、Polyplus-transfection 社 [略称: PPU] の商品コードが変更になりました。  
新商品コードにてご注文頂きますようお願いいたします。  
製品内容に変更はございません。

対応表 Web ページ番号

65942



### FAQ

Q-1. FectoVIR-AAV で実績のある細胞は？

A-1. Polyplus-transfection 社では、HEK-293T 細胞、HEK-293F 細胞、Expi293 細胞での使用を確認しています。また、β テストの結果によるといくつかの商用および研究室独自仕様の HEK-293 サブクローンでもよい結果が得られています。

Q-2. FectoVIR-AAV で実績のある AAV のセロタイプは？

A-2. Polyplus-transfection 社では、AAV-2 と AAV-5 の両方を産生しています。また、β テストの結果によると他のセロタイプでもよい結果が得られています。

Q-3. FectoVIR-AAV は接着細胞培養では使えないの？

A-3. FectoVIR-AAV は浮遊培養細胞システムで優れた収量を発揮します。接着細胞 (付着細胞) システムの場合は、PEIpro のご使用をお勧めします。

Q-4. FectoVIR-AAV を使用して組換えレンチウイルスまたは他のタイプのウイルスを産生できる？

A-4. 浮遊培養細胞または接着細胞 (付着細胞) システムでレンチウイルス産生を行う場合は、PEIpro のご使用をお勧めします。

様々なウイルスベクターに使用できる

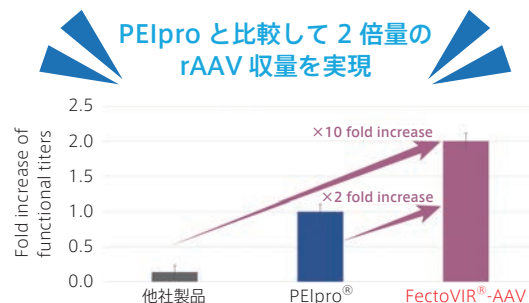
トランスフェクション試薬

PEIpro → p.18 参照



Q-5. GMP グレードの FectoVIR-AAV はいつ発売される？

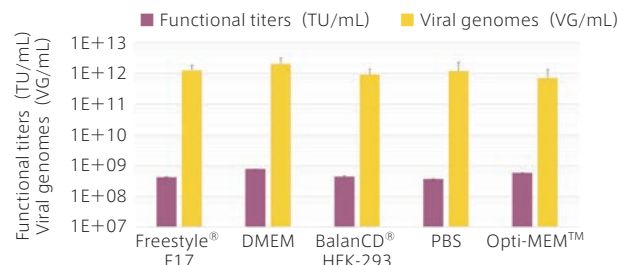
A-5. 2021 年に販売開始しました。詳細はお問い合わせ下さい。



浮遊培養細胞における組み換え AAV 産生  
(従来の PEI ベーストランスフェクション試薬との比較)

HEK-293T 細胞を播種し、他社 PEI ベース試薬または PEIpro (様々なウイルスベクターに使用できるトランスフェクション試薬)、FectoVIR-AAV (本製品) を用いてトランスフェクションした。72 時間後に rAAV-2 を回収しウイルス力価 (TU/ml) を測定した。本製品は AAV の生産量を最大 10 倍にまで増加させ、再現性を大幅にアップできる。

### 様々な培地や細胞システムに対応



HEK-293 細胞浮遊培養用合成培地との互換性

HEK-293T 細胞を播種し、本製品を用いて rAAV-2-GFP をトランスフェクションした。72 時間後に rAAV-2 を回収しウイルス力価 (TU/ml) を測定した。

### MEMO

①ラージスケール培養でのウイルスベクター産生では、使用する試薬量も大量になります。本製品は、細胞に添加すべきトランスフェクション複合体 (導入 DNA-試薬) 量を最小 1% にまで下げても十分な収量が得られるよう最適化されています。大規模生産においても、調製が必要なトランスフェクション複合体がより少なく済みます。

例えば、200 L の細胞懸濁液を使用する場合、調製すべきトランスフェクション複合体量は 20 L (10%) ~ 2 L (1%) の間で検討することができます。

②また、ラージスケール培養においては、大量の浮遊細胞にトランスフェクション複合体を導入する必要があり、トランスフェクションに要する時間が長くなります。そのため、トランスフェクション複合体の長時間安定性が必要となります。

FectoVIR-AAV トランスフェクション複合体は驚異的な安定性を示し、トランスフェクション試薬とプラスミド DNA を混合してから 6 時間後に細胞に添加した場合でも、rAAV 力価に有意な変動はありません。